

会 議 録

会 議 の 名 称		第2回 川島町環境保全審議会並びに川島町廃棄物減量等推進審議会会議録
開 催 日 時		令和7年10月7日(火)午後2時00分から午後3時10分まで
開 催 場 所		川島町役場 2階 大会議室
議 事		(1) 川島町環境総合計画の見直しについて (2) 川島町環境基本計画における取組状況について
公開・非公開の別		公開(傍聴者なし)
出席者	委 員	矢部 英男・遠山 寿二・野村 尚男・後藤 真太郎・ 鈴木 貞美・井ヶ田 幸生・鈴木 健・飯島 久美子・ 瀬間 さやか・田中 宏・江間 裕一 計11名
	事務局職員	町民生活課 課長 高城 同 生活環境グループ 主幹 友野・主査 石島 同 施設管理グループ 主幹 横山・主査 山木
配 付 資 料		・会議次第 ・川島町環境基本計画の見直しについて(資料1) ・川島町一般廃棄物処理基本計画の見直しについて(資料2) ・川島町環境基本計画における取組状況について(資料3) ・取組状況一覧表(資料4)
委 員	審議会の内容・概要 1 開会 2 会長あいさつ 3 町長あいさつ 4 諮問 5 議事 (1) 川島町環境総合計画の見直しについて(資料1) (資料2) 《意見及び質疑応答》 資料1の9ページ、「生物多様性保全イベントの実施」ということで、追記されているが、このイベントは5月に県が中心となり今年度試行的に実施したイベントであり、来年度以降の実施についてはまだ未確定の部分が多いため、町の環境基本計画への記載については、県とよく協議いただきたい。	
	9ページには、ネイチャーポジティブの実現ということで記載がされているが、具体的にどのようなアクションを起こすのか、検討してほしい。	
	資料1の7ページ、農地について「遊休農地、耕作放棄地の増加により農地の自然性の低下などが懸念されている」と記載されているが、耕作放棄地の増加により実害が出ている。遊休農地、耕作放棄地の解消に向けたアクションプランを作成するなど、踏み込んだ対応をしてほしい。現行の環境保全条例では打つ手がないのが現状なのではないか。	
	耕作放棄地については、地権者等に手紙で対処をお願いしているが、町外者だったり、未相続だったり管理者が分からなかったりして、そのままになって草が木になってしまう所もある。民地なので、町で切ることもできず、歯がゆい思いをしている。	

委 員	資料1の10ページ、自然環境の現状と課題の部分に、特定外来生物であるナガエツルノゲイトウについて記載を追加するのは大変良いと思うが、中山地区でも、越辺川から中山用水に入ってきて、すでに7～8か所で山のよう に繁茂している。とても繁殖力が高い植物なので、こちらもアクションプランを作成し、早めに手を打つ必要があると思う。 また、ナガエツルノゲイトウと同じく繁殖力が高いオオバナミズキンバエも懸念されるが、まだ埼玉県内では確認されていないのだろうか。
委 員	ナガエツルノゲイトウの除去作業については、昨年度から数か所の水路にて、町職員と土地改良区職員の手作業で実施した。少しでも減らせるよう、今後も続けていきたいと思う。 オオバナミズキンバエへの懸念についても、把握はしている。現在、埼玉県内では確認されていないが、情報収集に努め、早めの対策を打てるようにしたい。
委 員	先日、中山地区で地域の方が水路に繁茂しているナガエツルノゲイトウの除去をしたようであるが、除去の際に一部が下流に流れてしまうと、繁殖先を拡大してしまい、かえって被害が増えてしまうことになる。ナガエツルノゲイトウを除去する際の注意点を、もっと周知した方が良い。
委 員	10ページに記載されている特定外来生物の改正案では、町内でもナガエツルノゲイトウが確認されているという記載になっているが、現実的には色々な対応をしているということであれば、実施していることも記載するような表現にした方がよいと思う。また、除去の仕方の注意点等があるようであれば、そういった部分も加えた方がよい。
委 員	資料1の15ページに空き家の記載があるが、居住地区内においても手が出せない空き家が増えている。対策を考えていただきたい。
委 員	資料1の17ページにマイクロプラスチックについての記載を追加してもいいのではないかと。化学肥料にはマイクロプラスチックが入っているものもあり、PFOS、PFOAの元凶ともなっている。肥料の撒きすぎも、環境が汚染されてしまう恐れがある。そういったことも、指導できないか。
委 員	資料1の26ページ、その他の公害防止に向けた取り組みということで、農業や化学肥料の使用について記載があるが、「使わないように」ということだけでなく、例えば、お酢や重曹を撒くなどの代替案を添えて啓発した方がよいのではないかと。
委 員	資料1の1ページ、地球温暖化対策実行計画について記載されているが、温室効果ガスの排出量を50%削減するという目標は、平成28年度比ということで基準年度も記載すべきだと思う。
委 員	資料1の4ページで、現行の計画に「川島インターチェンジの供用開始や企業進出により交通量の増加が予想される」と記載があるが、すでに一部で供用が開始されており、進んでいる部分もあるし、これから開発を進めていく所もあると聞いている。現状に併せて文章を変更したほうがよい。

委 員	資料1の14ページ、ごみ処理の概要にリサイクル率の記載があるが、現在もリサイクル率33%で変わらないのか。数値が変わっているようであれば、現状に併せて修正してほしい。また、同じページの集団資源回収事業報償金は、1kgあたり5円に変更されたと思うので、修正してほしい。
事務局	皆様から頂いたご意見やご指摘を集約し、改正案に反映します。
委 員	(2)川島町環境基本計画における取組状況について(令和7年度上半期分)(資料3)(資料4) 《意見及び質疑応答》 資料4「主な取り組みに対する進捗状況について」を見ると、成果指標や評価の仕方に違和感を感じる。例えば、基本方針1の3、動植物、生態系の分野で、令和7年度の目標6回に対して3回の実績で達成度に○がついている。2の2、水環境の分野でも、法定検査受検率63.4%が目標のところ、22.3%で△となっている。これは×ではないか。さらに、3の3、廃棄物・リサイクルの分野で、施設見学的人数がリサイクルに関係あるのだろうか。 各課が目的達成度の評価を自己採点したものを、アンケートのように集計して一覧表を作っているだけではないのか。重要なのは「十分でなかったところを、その後、十分にするためのアクションを示す」ことである。その部分まで一覧表に記載すべきではないか。
委 員	評価は数値だけでなく、今後の取り組みをどうしていくかが大事である。PDCAサイクルは見直すプロセスも重要である。
委 員	1-2、河川・水辺の維持管理が、業者への委託内容で評価が決まるのは見直したほうが良い。
委 員	環境政策のとりまとめ役として、リーダーシップを持って、施策の点検をしていくことが重要である。評価をきちっと行い、だめなら指導していく等を実施すべきである。
事務局	内容を精査していきます。
署 名	鈴木 健
	飯島 久美子